

地域における多職種連携による 口腔機能発達支援の取り組み 第2報

○赤井 綾美, 小石剛* NPO法人ウェルビーイング, *池田市歯科医師会

【目的】

近年,子どもたちのう蝕罹患状況に格差がみられ,子どもたちの生活環境の格差も予測される。また子どもに関わる専門職から「うまく食べられない・丸飲み・よだれが出る・口が開いたまま」等といった問題や困りごとが多く寄せられている。

臨床においても噛み合わせや咀嚼に関する相談の割合は最も多いという¹⁾。また歯科口腔保健の推進に関する基本的事項(厚生労働省)においても,乳幼児期から良好な口腔・顎・顔面の成長発育及び適切な口腔機能の獲得を目指している。

そのため池田市歯科医師会では,地域全体における子育て支援の一環として,口腔環境や口腔機能の発達への支援に対応していくため,地域における多職種による支援の体制の整備を目的にワークショップ形式による研修事業を継続して開催している。

【対象と方法】

池田市内の子どもに関わる組織や職種を対象に,平成25年度から平成29年度に8回の研修を開催した。

多職種がそれぞれの困り事や悩みの共有,顔の見える関係づくり,歯科専門職から歯科疾患や口腔機能の発達に関する情報提供を行った。また毎回研修事業の評価を行い,これまでに先駆的な事業の視察や池田市全域の保育士への研修を行ってきた。

平成29年度に行った3回の研修では,それぞれの現場での口腔機能発達支援が具体的に進展するように,基本的な知識の整理と理解(第1回),事例とマニュアルをもとに具体的な支援方法を理解し実践できるようになる(第2回),各現場ですぐ実践できる具体的な支援方法や各事業の継続や展開に向けた計画(第3回)を目標として研修を行った。

【平成29年度 プログラム】

口腔機能発達サポーター養成講座
多職種研修会(3回シリーズ)

目的: 口腔機能発達支援を多職種協働し発展させる

<ねらい(強化したいこと)>

- ・池田市管理栄養士会開催の離乳食教室での実践
- ・保育所などでの離乳食の補助や指導
- ・池田市歯科医師会での検診時の指導

第1回 参加: 70名

「口腔機能の発達と支援方法について理解しよう」
目標: 栄養および口腔機能の発達における基本的な知識の整理と理解

第2回 参加: 50名

「口腔機能発達の具体的な支援方法について」
目標: 事例とマニュアルをもとにした具体的な支援方法の理解と実践(ロールプレイの実施)

第3回 参加: 49名

「地域現場の具体的支援の紹介とグループワーク」
目標: 現場での事業展開の具体案作成

【結果】

8回の研修の参加者は延べ361名以上となり,連続参加者も増加した。これまでの参加職種は歯科医師,歯科衛生士,保育士,管理栄養士,栄養士,保健師,言語聴覚士,助産師,歯科助手,小学校・支援学校教員,医師,子育て支援職など幅広い職種であった。

アンケートの結果より,研修は様々な立場での意見交換のもと多職種が交流する機会となり,乳幼児期における口腔機能発達支援の重要性について共通理解が得られたことが確認できた。

また平成28年度には市の乳幼児健診事業および歯科医師会乳幼児歯科健診項目として口腔機能の発達評価を追加できた。

平成29年度に行った3回の研修のアンケートから,多様な現場での口腔機能発達支援の具体的な情報を提供できたことで,受講者の支援に対する効力感(10点満点)が高まった(図1)ことが評価できた。

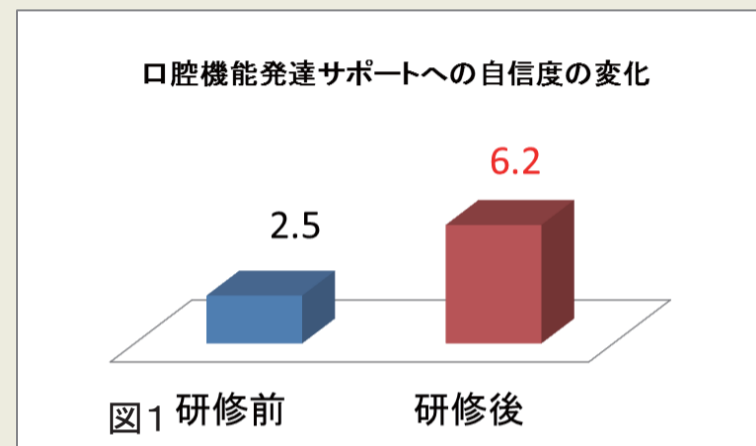


図1 研修前 研修後

【考察】

平成25年度からの継続的な研修により,平成29年度の具体目標を設定した3回の研修の継続的な参加が得られ,さらに地域での多職種協働への推進力になったと考えられる。

今後は,具体的な健診体制の整備と人材育成,新たな口腔機能の発達支援事業の展開等に向け,地域における保健専門職および子育てにかかわる団体等の関係者で構成するチームによるプロジェクト体制の整備を継続していく必要があると考える。

【参考文献】

- 1) 「子どもと保護者への食の問題に関する調査」報告書: 日本歯科医学会, 2015



参加職種内訳: 歯科医師8名 歯科衛生士31名 歯科助手6名 管理栄養士・栄養士14名 保育士5名 保健師5名 看護師2名 講師1名(ベビー教室) 受付事務2名
全3回の修了証の発行: 32名

『生命活動の3S』: 健口を育み守る 呼吸・食(摂食・嚥下)・姿勢のバランス

【参考文献】

小石剛, 赤井綾美, 西川岳儀, 高島隆太郎.

子どもの口腔機能を育む取り組み 前編~後編. 歯科衛生士, 2016;40(11):38-51,40(12):54-67.

